



株式会社 **アビスト**
CSR Report 2018



CSR Report 2018 について

編集方針

「CSR Report 2018」は、アビストの企業理念、事業内容、CSR それぞれの関連性、および CSR への取り組みをまとめたレポートです。当社がどのような思いで CSR に取り組んでいるのか、そのポイントや課題は何かについて、ステークホルダーの皆さまにお伝えすることにより、ステークホルダーの皆さまと当社との建設的な対話を促進し、当社の CSR への取り組みを継続的に改善することを目的として本レポートを発行いたします。

対象期間

2017 年 10 月～2018 年 9 月

(一部、2017 年 9 月以前の活動や発行日直前の状況も含めています。)

報告範囲

アビストおよび連結子会社の活動

発行時期

2018 年 12 月



CONTENTS

01 CSR Report 2018 について

- 01 編集方針、対象期間、報告範囲、発行時期
- 03 社長メッセージ
- 04 アビストの概要
- 05 企業理念
- 06 CSR 方針・推進体制

02 トピックス

- 01 3Dプリント事業部認証取得等、日経 NEXT1000 選出

03 環境の変化に対応する

- 01 変化に対応するために

04 社会貢献

- 01 社会貢献

05 人権の尊重

06 ステークホルダーエンゲージメント

07 環境保全

08 コーポレート・ガバナンス

- 01 コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方、会社の機関の内容等
- 02 リスクマネジメント
- 03 コンプライアンス
- 04 コンプライアンスガイドライン

社長メッセージ

当社は『コンプライアンス、CSRの遵守と社会貢献』を事業目的の一つとして掲げ、東証一部上場企業としての責任を重く受け止め、CSRの推進に努めてまいりました。これからも、社会市民の一員として、責任を果たしさまざまな貢献ができるようCSRに継続して取り組んでいきます。

第13期（2017/10～2018/09）は、工業設計技術サービスへのお客さまのニーズは底堅く、売上、利益とも対前年比プラスの決算となりました。当社の主要顧客である自動車業界は、移動のサービス化という世界的なうねりのなかにあり、自動車は、所有するものではなく利用するものに徐々に移行していくことはあきらかです。このような状況のもとで当社の工業設計技術サービスについても、現在、加速している設計開発のデジタル化を3D-CAD技術者の育成に注力してきた企業として機会ととらえて事業の拡大を図り、あわせて、当社の強みを活かした次の柱になるような新たな事業を創出し、今までにない価値をお客さまに提供することを通して社会貢献したいと考えています。

今後も新たな価値を創造し続ける企業として成長できるよう努力してまいります。引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2018年12月

株式会社 アビスト

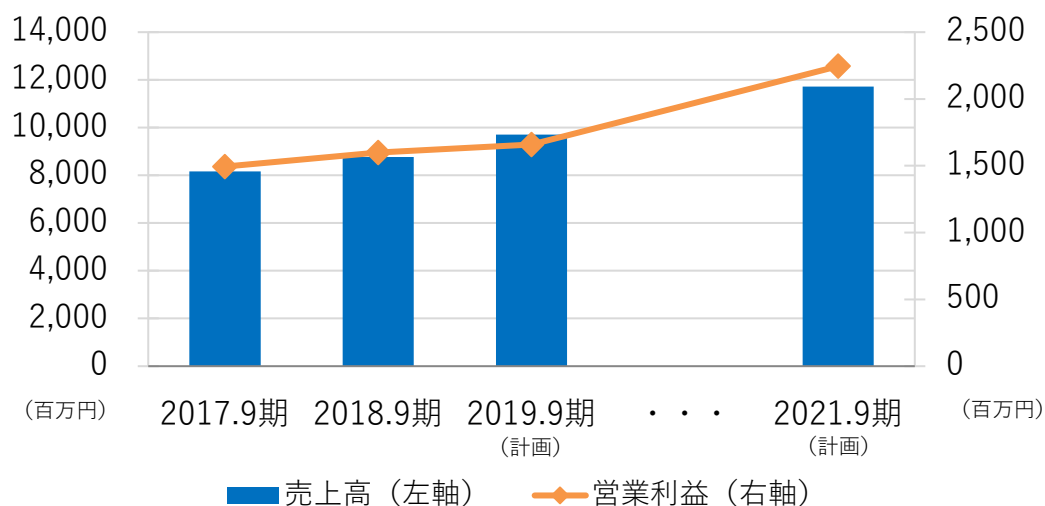
代表取締役社長

進 勝 博

アビストの概要

社名	株式会社アビスト (ABIST Co.,Ltd.)
本社	〒165-0026 東京都中野区新井2丁目6番13号
設立	2006年3月17日
代表取締役社長	進 勝博
資本金	10億2,665万円
社員数	1,106名 (2018年9月末現在・連結)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・工業設計技術サービス事業 ・3D-CAD 教育事業 ・不動産賃貸事業 ・水素水製造販売事業 (株式会社アビストH&F)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 証券コード：6087

連結業績	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期 (計画)	・・・	2021年 9月期 (中計)
売上高(百万円)	8,169	8,761	9,709	・・・	11,718
営業利益(百万円)	1,494	1,598	1,658	・・・	2,245
売上高営業利益率	18.3%	18.2%	17.1%	・・・	19.2%



企業理念

創業の精神

設計技術者が設計技術者のために働き合う設計技術者の集団を確立する

- ・自らが汗して、苦勞して、実体験して道無き道を踏破し、そのナローな道から光明を得る。
- ・人が嫌がる道を敢えて進んで独自の道を切り拓く。
- ・易しい事ができてもその価値は小さい。
- ・やりにくい、難しい事をやり遂げ、価値あるものになる。
- ・人の真似はしない。智恵を加えて、似て非なるものを求める。
- ・四分の利があれば、伸るか反るか、大勝負。臆病風に誘われてはいけない、是非を忘れて最後までやりぬく。

事業目的

1. 取引先の信頼と安心の確保に基づくサービスの提供
1. 社員の生活向上と安定の確保
1. コンプライアンス、CSRの遵守と社会貢献

経営理念

顧客主義	取引先との共生によるパートナーシップの確保
社員主義	社員の自主自律による価値創造の確保
成果主義	機会平等と評価公平性の確保

信頼の和の六輪づくり

- ・お客様との信頼の和
- ・大学関係者との信頼の和
- ・技術社員と拠点との信頼の和
- ・拠点と本社の信頼の和
- ・本社内の上司部下との信頼の和
- ・ステークホルダーとの信頼の和

CSR 方針・推進体制

アビストの事業目的は、社会全体、お客さま、当社の社員、それぞれに対しバランス良く貢献することを表しています。特に「コンプライアンス、CSR の遵守と社会貢献」については、法令や社会倫理に従い、責任を果たしていくことにより、社会に貢献することを表明しています。アビストは事業開始以来、設計のアウトソーシングサービスの提供により、日本のものづくりに貢献してきました。技術者が働きあう技術者集団の確立を創業の精神として、3D-CAD 技術に特化することにより、高度な技術を持った技術者を多数育成し、人づくりとしての貢献もおこなってきました。設計技術については、3D-CAD のみにとどまらず、一連の開発業務である解析や測定まで事業範囲を拡大しています。また、3D データの取り扱いノウハウを活かした 3D プリント事業の拡大により、データ領域だけでなくリアルな領域にも進出しています。アビストの社員が安心して就業できる環境をつくることで、サービスレベルも向上し、お客さまに満足していただけるサービスを提供することができます。顧客満足と新たな挑戦により、会社が成長してステークホルダーの皆さまに貢献することができると考えています。

アビストは、事業目的の通り、社会全体、お客さま、社員のそれぞれに貢献していくことを目指し、CSR を推進いたします。CSR の推進を総務部の業務と規定して推進主体を明確にし、取締役会と連携することにより全社的な活動をおこないます。

トピックス

3Dプリント事業部（豊橋）認証取得、設備増強

3D プリント事業部豊橋事業所（愛知県豊橋市）にて、航空・宇宙・防衛産業向けの品質規格である EN9100（JIS Q 9100、AS 9100 と同等）の認証を 2018 年 3 月に取得しました（認証登録番号：FM679334 認証事業所：3Dプリント事業部）。EN 9100（欧州）は、ISO9001 をベースに航空宇宙産業界特有の要求事項を加えて策定された ISO9001 のセクター規格です。AS 9100（米国）／JIS Q 9100（日本）と同じく世界標準の航空宇宙・防衛産業に特化した品質マネジメントシステムとして制定された規格であり、航空宇宙・防衛産業のグローバルな部品調達基準として採用されています。

2018 年に、4 台の金属造型機の増設を予定しており、すでに 3 台の増設は完了しています。当社が主力事業を展開する自動車業界および自動車部品業界をはじめ、航空、宇宙産業などの領域にも幅広く対応することを目的として増設するものです。

増設設備は「ProX 320」3 台、「LUMIX Avance-25」1 台であり、増設完了後の保有金属造型機は計 7 台になります。

日経 NEXT1000 5 年連続増益ランキング選出

アビストは、日本経済のけん引役として期待される中堅上場企業「NEXT1000（日本経済新聞）」の連続増益ランキングの 8 位に選ばれました。本ランキングは、5 年連続で営業損益が改善した企業を改善額の多い順に順位付けしたものです。当社は対前年で売上、利益とも成長することを目標としています。今後も成長を継続できるよう、既存事業の拡大と新規事業の開発に取り組んでまいります。

環境の変化に対応する

変化に対応するために

アビストは、1998年に工業設計技術サービス事業を開始しました。設計開発の3D化という変化を察知し、技術者も設備もないところから、技術者の採用、3D-CAD購入、技術の習得、顧客の開拓、という事業のすべてをゼロから積み上げてきました。過去を振り返ると、いままでの道筋は1本につながっていますが、さまざまな状況に対応して一步一步手探りで進んできたこと、それらすべてをもとにして今の当社があります。

現在、AI、IoTなどの技術進歩により、識別や判断の自動化が始まっています。日本の人口減少による人手不足がかならずくる未来であることは明確です。当社も、管理業務については、RPAを導入し、業務自動化への取り組みを始めています。設計開発業務についても、生産性向上の取り組みをすすめており、徐々に成果がでてきています。

設計開発はファイルベースからモデルベースへの転換や、設計の最適化の普及など、今後、急激に変化する可能性があります。3D化の波に乗ったように、変化をとらえて機会とすることにより、事業基盤を磐石にする必要があります。

大きな変化に対応するには個人としてだけでなく、組織としての対応が重要になります。当社の創業の精神である、技術者が働き合う技術者集団の確立のために、技術チームのチームビルディング支援策を実施しています。一般的な懇親会だけでなく、サイクリングやカートレース、シュノーケリング体験、Webアプリ開発など支援開始1年間で多数のイベントが実施されました。毎年、期末には翌期に向けた全体会議を各事業所にておこなっています。2018年9月期を総括し、2019年9月期の事業方針および今後の会社方針について社員全員に説明をおこない、全社のベクト

ルをあわせています。会議の後は懇親会を開催し、社員同士が交流する良い機会となっています。

アビストは事業形態上、社員の就業場所が社内外に分散します。各事業所にて定期的な面談やイベント開催などの、社員同士の信頼の和の構築のための施策を実施しています。情報を共有し、信頼の和の構築を補完することや、社内手続きの効率化のため、社員全員に携帯情報端末を貸与しています。携帯情報端末は、就業場所の条件などにより、タブレットもしくはスマートフォンを選択します。当社設立当初から実施している、サークル活動支援についても、社員の一体感を醸成することにつながっています。

社員個人の貢献にスポットライトをあて、社員全員で称賛すること、就業場所が異なるために近況を聞くことができない他の社員の様子を知ることができること等を目的として、毎年、優秀社員表彰や永年勤続表彰等をおこなっています。社員の平均年齢が30歳を超え、家族を持つ社員も増えてきました。手当や社宅等の生活支援も、社員の状況にあわせて改定し、安心して就業できる環境をつくっています。

社会貢献

社会貢献

クリーン・ボランティア活動

アビストは 2009 年 1 月より、本社及び全国各地の事業所において、役職員有志による毎朝始業前の地域清掃活動（クリーン・ボランティア活動）をおこなっています。全社で「クリボラ」という共通言語として定着しています。さわやかな朝の空気のなかで清掃活動をおこなうことによって、オフからオンへ気持ちを切り替えることができます。

障害者雇用の推進

アビストの障害者雇用は、各事業所の事務補助業務・清掃業務、全社の事務業務のサポートをおこなう本社内の業務支援チーム、の大きくわけて 2 通りの対応にて障害者雇用の推進をしています。本社および各事業所において、業務切り出しを推進することにより、障害者のさまざまな事情に対応できる業務をつくりだすことができるようになっていきます。ある程度の規模の事業所については、障害者に任せる業務を切り出し、各種支援機関とも連携して業務に適した人材を雇用することが当然のこととしてできるようになりました。3D プリント事業により、社内業務も多様化していますので、事務補助業務と清掃業務だけでなく、造形補助業務を担当する障害者も在籍しています。本社内の業務支援チームについては、障害者が働きあう体制の構築に向けて、担当業務の拡大や人材の採用などをすすめています。

このような取り組みにて、2018 年 12 月時点で法定で必要とされる人数は確保できていますが、4 月の新卒社員入社もありますので、気を緩めることなく障害者雇用の推進してまいります。

大学との産学連携

本年も、東海大学工学部の産学連携による公募型問題解決コンペ「ものづくり学生サミット in 湘南 2018」に協賛いたしました。本サミットは、「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げる力」を学生自らが主体的に体得することを目的として毎年実施される学内プログラムです。5月の課題テーマ設定から始まり、翌年1月の表彰式まで約半年間の学生の取り組みを支援します。アビストも趣旨に賛同し、当社の強みである設計から造形まで一貫して対応できることにより学生をサポートしています。

アビスト H&F による熊本への寄付など

菊池溪谷は熊本地震により、土砂崩落や落石などが発生しました。浸みわたる水素水の定期購入者向けの熊本県菊池特産品プレゼントの1つとして、「菊池溪谷復興寄付金」を設定しています。

人権の尊重

基本的な考え方

アビストは1,106名の従業員（2018年9月末、連結）が在籍し、その大部分は設計開発アウトソーシング事業の技術社員であるため、事業特性上、技術社員が就業する場所は全国に広がり、担当する技術は多様なものになっています。また、3Dプリント事業の拡大、海外人材の採用、障害者の雇用促進等により、社内の多様性は増しています。アビストは経営理念にて社員の生活向上や自律性の向上を掲げており、社員一人ひとりがイキイキと生活できることや自由闊達に意見交換できることを重視しています。また、社員一人ひとりの集合が企業であり、アビストの設計開発アウトソーシング事業は事業特性上、特に人材の重要性が高いと考えています。社内の多様性の進展や事業特性を踏まえ、アビストの人権についての基本的な考え方は以下のとおりです。

人権は、すべての人に必ず属し、放棄することも剥奪することもできないこと。担当業務が設計開発か清掃か、性別が男性か女性か性的少数者か、国籍が日本か日本以外かなど、職種、地位、性別、国籍等にかかわらず適用されること。さらには、仕事に対する意見、人生の価値観、いままでの経験、持っている能力、受けてきた教育など、各人の意見、価値観、経験、能力等を尊重すること。

アビストは、「コンプライアンスガイドライン」にて人権尊重を規定しています。万が一、差別など人権を侵害する行為が発生した場合の通報窓口として「公益通報制度」を設置しています。

ステークホルダーエンゲージメント

基本的な考え方

アビストは事業目的にて、社会全体、お客さま、当社の社員、に対し貢献していくことを表明しています。事業目的を達成するためにステークホルダーを含めた「信頼の和の六輪づくり」に継続的に取り組んでいます。

アビストは、ステークホルダーを認識し対話をおこなうことにより、アビストの活動がステークホルダーに対しどのように貢献しているのか、また、どのような影響を与えているのか、理解する努力をいたします。自らの活動の影響度合いを把握したうえで、継続的に活動の改善をおこないます。

ステークホルダー	関係等
株主	IR情報、株主総会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会、個人投資家向け会社説明会、投資家との個別面談
お客さま	エリアごとの事業所配置、営業担当者の任命
大学関係者	エリアごとの事業所配置、採用担当者の任命、大学への協賛
取引先	エリアごとの事業所配置
社員	社員面談の実施、研修・勉強会・イベント開催、評価制度の運営
地域社会	クリーン・ボランティア活動、お祭りへの協賛

ステークホルダーとの共通の窓口として、広報室を設置し、ホームページによる情報発信や、電話・Eメールによる個別のお問い合わせへの対応をおこなっています。

アビストホームページ <https://www.abist.co.jp>

[広報室] TEL. 03-5942-4649 E-mail: pr@abist.co.jp

環境保全

基本的な考え方

自動車業界におけるクリーンエネルギー車の開発など、製造業による環境問題への取り組みに、設計開発技術で貢献します。日々の企業活動においても環境意識の向上を図り、電気や水の節約、紙や文房具の再利用、ゴミの分別廃棄など、できることを一つ一つ着実に実行していきます。

自社賃貸物件の照明 LED 化、電気使用量記録等

アビストは渋谷区富ヶ谷に賃貸物件を保有しています。2012 年に、地下 1 階から 3 階までの蛍光灯 230 灯をすべて LED 照明に交換いたしました。

本社、事業所での電力使用量のリスト化により使用量を把握し、昼休みの消灯などの省エネ活動をおこなっています。

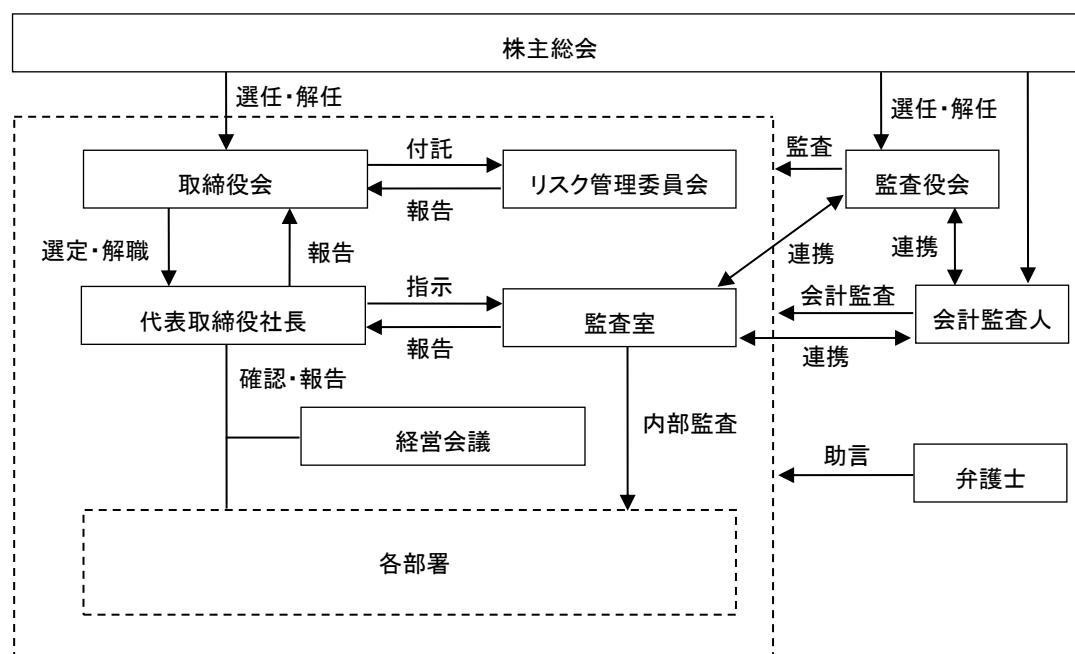
コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

開かれた、健全で透明な企業活動を行いつつ、企業価値の増大と永続的発展を目指すことが、経営上の最も重要な課題であり、それを実現するためには、経営上の組織体制やその仕組みを整備し、必要な施策を講じていくことが不可欠であると認識しております。事業目的、経営理念を定め、毎日の朝礼、会議や研修前に唱和し、当社の基本的な考え方を繰り返すことによって、組織全体の考え方の統一をはかっています。社外役員については、2018年12月の株主総会にて、社外取締役4名、社外監査役2名の体制になる予定です。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

当社は監査役制度を採用しております。コーポレート・ガバナンスの充実のために、株主総会の充実、取締役会及び監査役の一層の機能強化を図るとともに、積極的かつ継続的な情報開示に取り組んでまいります。当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部統制体制の概要は以下の図の通りです。



リスクマネジメント

アビストは、リスクマネジメントの確立に向けてリスク管理規程を制定し、リスク及び危機発生時の迅速・的確な対応ができるようリスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会においては、対象リスクの識別・評価を行い、定期的に取り締役に報告し、常に適切な対応をとるべく努めております。さらに、リスク管理及びコンプライアンスの徹底を図るため、取締役会、その他の会議にて情報を共有し、各役員から社員までリスクの早期発見と未然の防止に努めております。特に、情報の管理において当社は情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001、登録組織：本社・東京受託室、登録活動範囲：顧客要求に基づいた三次元 CAD による設計業務）の認証を取得しており、情報セキュリティ体制には万全を期しております。また、コンプライアンスの徹底については社員の入社時、派遣開始時、朝礼時、各会議時及び社内報等を通して全社員にその意識付けを頻繁に実施しております。今後も社会の信頼に応える高い倫理観を持って行動すべく全社員にリスク管理及びコンプライアンスに対する意識の向上を図ってまいります。

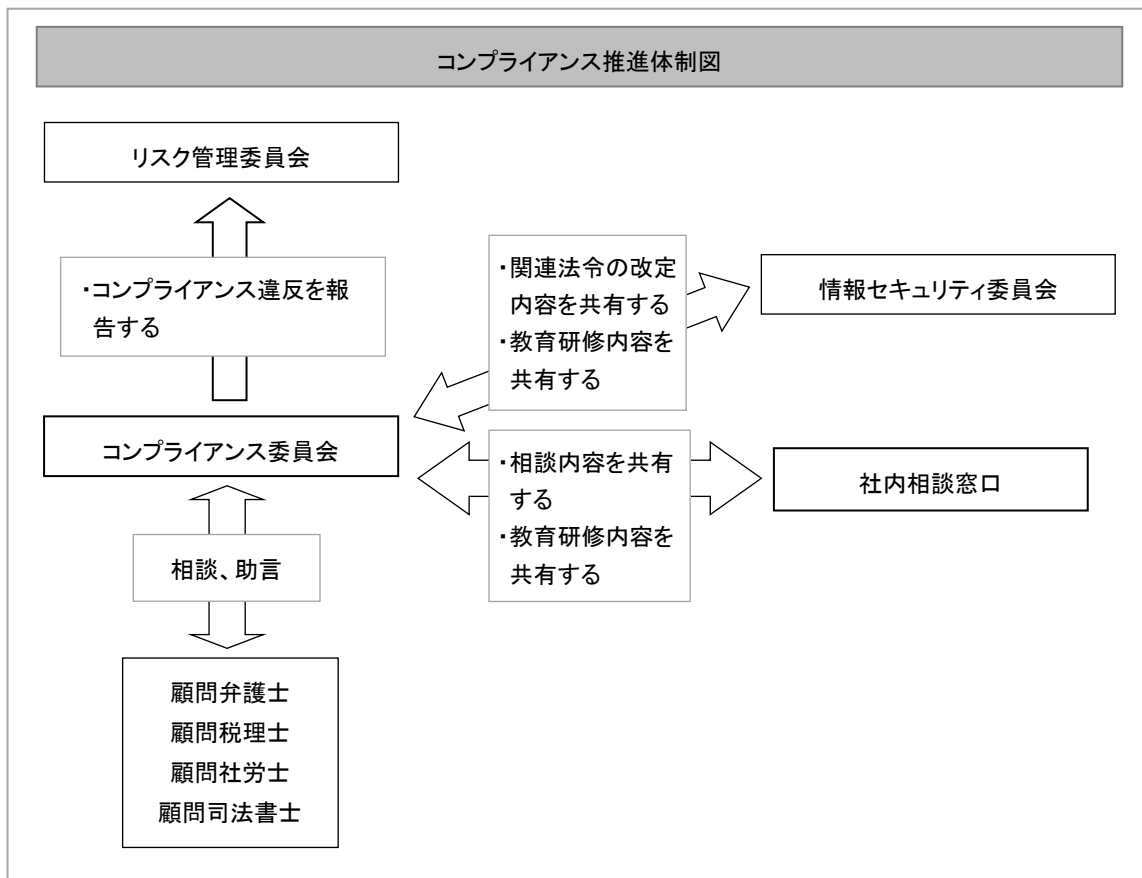
また、不測の事態への応用力を向上させることを目的として、事業継続計画書（BCP）を策定し、定期的に見直しをおこなっています。東日本大震災発生時に通常の連絡方法が利用できなくなったことを教訓とし、BCP に基づき、グループウェアを利用して定期的に災害時の安否確認訓練をおこなっています。

なお、アビストは弁護士等の外部専門家と顧問契約を締結し、適宜、重要な法的判断、コンプライアンス等に関して、助言と指導を受けております。

コンプライアンス

アビストは、「コンプライアンス規程」によって、コンプライアンスに関する基本事項を定め、関連する文書として、ハラスメント防止に関する規程や反社会勢力の対策規程等を定めて、コンプライアンスの推進を図っています。

毎年、コンプライアンス推進計画を策定し、コンプライアンス委員会の定期的な開催やコンプライアンス研修等を実施しています。アビストは、信頼の和の六輪づくりに取り組んでおり、その信頼をうらぎることのないようコンプライアンスを推進してまいります。



コンプライアンスガイドライン

本ガイドラインは、企業活動において法令や社会規範に反することなく、公正・公平に業務を遂行するための行動規範です。株式会社アビストの役員および社員は、本ガイドラインを実践することが当社の健全な発展に不可欠であることを認識し、自らの行動、そして会社業務としての活動において、率先垂範し、これを遵守していかねばなりません。

1. 総則

法規範の遵守

企業としての信頼性の向上および株主尊重の重要性を認識し、国内外の法令を遵守することはもとより、当社に求められる企業倫理を十分に認識したうえで、社会規範を尊重し、社会人としての良識と責任をもって行動します。また、社外で業務を行う場合には、お客様が定めるルールや規範などを遵守し、自らの行動が会社全体に影響を与えるものであることを自覚し行動します。

2. 社会との関係

社会への貢献

地域社会への協力、ボランティア活動への参加などを通じて、積極的に社会貢献活動を実践し、企業市民としての役割を果たします。

環境問題への取り組み

自動車業界におけるクリーンエネルギー車の開発など、製造業による環境問題への取り組みに、設計開発技術で貢献します。日々の企業活動においても環境意識の向上を図り、電気や水の節約、紙や文房具の再利用、ゴミの分別廃棄など、できることを一つ一つ着実に実行していきます。

反社会的勢力の排除

法令と良識に基づいて行動し、暴力団に対する利益供与など法令上の禁止行為を行わないことは勿論、反社会的勢力との関係は一切遮断します。反社会的勢力からの不当要求に対しては、警察並びに公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会などと連携のうえ組織として透明性のある対応を行い、事実を隠蔽するための裏取引や資金提供は絶対に行いません。

3. お客様や取引先との関係

二重派遣・偽装請負の禁止

派遣先から他社へ再派遣され、指揮命令権が再派遣先にあるような「二重派遣」は行いません。また、契約上は業務請負の形をとりながら、指揮命令権が注文主にある「偽装請負」は行いません。

購入先との適正な取引

購入先との取引においては、良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正に扱います。また、取引先に業務委託を行う際には、下請法を遵守し、支払遅延などの行為を行わないよう留意します。

4. 株主や投資家との関係

企業情報の適時・適切な開示

会社法をはじめとする関係法規および規則などを遵守し、企業としての信頼性の向上および株主尊重の重要性を十分に認識し、適時適切な情報開示によって企業活動の透明性を確保します。また、Web 上での情報開示などを活用し、当社の経営理念や事業内容、ビジネスモデルなどを積極的に情報発信します。

インサイダー取引の防止

インサイダー取引を未然に防止するため、インサイダー取引規制の役員及び社員への周知徹底および自社株取引に関する社内ルールの厳守を図ります。取引先に関する未公表の重要事実を知った場合には、インサイダー取引に関与することが絶対になく、公表されるまで厳重に情報管理します。

5. 職場における指針

人権尊重・差別禁止

常に健全な職場環境を維持することに努め、各自の人権を尊重し、差別につながる行為は一切行いません。また、人種、民族、国籍、宗教、性別、心身の障害の有無、健康状態、職種、雇用形態の違いなどによる差別は行いません。

セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの禁止

性的嫌がらせ、他人に性的嫌がらせと誤解されるおそれのある行為、職務上の地位や権限を利用して他の者の人格や尊厳を侵害する行為は一切行いません。また、他の者がこのようなことを行わないよう、社内の風土づくりに努めます。

職場の安全衛生

安全・衛生に関する法令などを遵守するとともに、衛生管理年間計画や心の健康づくり推進計画にもとづいた活動を行うことにより、心身の健康状態を良好に保ち、安全で衛生的な職場環境の整備に努めます。

労働時間の厳守

社員は労働三法などの労働関係法を遵守し、労働時間、有給休暇などに関する報告を正確に行います。また、職場上長は部下の勤務日や勤務時間の管理を徹底します。

安全運転の徹底

交通事故は当事者の苦痛はもとより、社会への影響も少なくないこと、当社の事業の性質上、自動車を利用する機会が多いことを十分自覚し、交通ルールを遵守し、安全運転に努めます。

6. 会社や会社財産との関係

知的財産権の適切な取扱

全ての業務の遂行において扱う技術、著作物など第三者の知的財産権の大切さを理解し、その権利を尊重し、適切に取り扱います。

特に、インターネット上から情報やソフトウェアをダウンロードする時は、著作物などの権利侵害に十分注意致します。

就業規則の遵守

常に就業規則および会社の内規・基準・マニュアルないしは会社の命令を遵守し事業の発展に努めます。

企業秘密の管理

企業秘密（ノウハウ、財務情報、顧客リストなど）は適切に管理し、会社に無断で社外に開示・漏洩しません。企業秘密を社外に開示する場合は、機密保持契約を結ぶなど、予期せぬ漏洩の防止に努めます。また、他社の秘密情報に関しては、盗用したり他社から許された目的以外に使用しません。

会社資産の適切な使用

会社資産を効率的に使用し、個人的な目的で使用しないよう適切に管理します。

利益相反禁止

偽りの申告による手当の取得、会社資産や物品の私的利用、情報の不正転売、常識を逸脱した贈答の授受など、自らの利益のために会社やお客様の利益を不当に害する行為は行いません。

情報システムの適切な使用

事業活動にともなって取り扱う個人情報や顧客情報は、守るべき最重要となる情報資産であると認識し、会社の定める情報セキュリティ方針に則って、情報システムの保護と利用のルールを遵守します。

7. 附則

本ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインは、株式会社アビストの役員および社員に適用します。なお、社員には契約社員、嘱託社員、臨時社員、および当社が受け入れている派遣社員を含みます。

本ガイドラインの改廃

本ガイドラインの改廃についてはコンプライアンス委員会での検討後、社長の承認を得るものとします。

相談・申告窓口

- (1) 本ガイドラインの内容や解釈に関して疑義が生じた場合の問合せ窓口は総務部とします。
- (2) 本ガイドラインに違反する行為または違反のおそれのある行為については、これを発見した場合またはみずから行った場合を問わず、速やかに所属長または総務部のいずれかに報告しなければなりません。
- (3) 報告者は、報告したという事実により何ら不利益を被ることはありません。

罰則

本ガイドラインに違反する行為をした者や本ガイドラインへの違反を放置した者については、就業規則その他の社内規程に基づいて処罰するものとします。

以上

